



総社市では、新年度からの学校・園における対応について、教育活動と感染リスクの軽減が両立できるよう検討してきました。

この検討の経過について、お知らせいたします。具体の対応については、同時にお配りする文書をご覧ください。

1. 総社市感染症専門家会議（2月13日）

医師などの医療関係者や感染症分野の専門家で構成する「総社市感染症専門家会議」が開催され、今後の新型コロナウイルス対応について、話し合いが行われました。

（主な意見）

- ✓ マスクの着用については、マスクが子どもたちに与えた影響は非常に大きかったことから、子どもと対話し、意見を聞いた上で、方向性を示していく。
- ✓ 学級閉鎖は、インフルエンザ並みの扱いとする。
- ✓ イベント開催については、必要な感染対策を行った上で実施する。

2. マスクの着用に関する児童生徒からの意見聴取

2月末から3月上旬にかけて、児童生徒から意見を聴取しました。

（主な意見・良い点）

- ✓ マスクを外すと、表情が分かりやすくなり、伝えたいことが伝わりやすくなる。コミュニケーションが取りやすい。
- ✓ 声を通る。声が小さい子どもみんなに聞こえやすくなる。
- ✓ 自分で決められることはよいと思う。

（主な意見・悪い点）

- ✓ 感染が怖い。（新型コロナウイルス感染症、風邪、インフルエンザ等）感染リスク。
- ✓ 顔を見られることへの抵抗、恥ずかしさ。
- ✓ 着けている方が安心できる。

3. 総社市総合教育会議（3月20日）

市長が主宰し、教育委員や校長・幼稚園長が参加する「総合教育会議」が開催されました。総社市感染症専門家会議の議論や児童生徒の意見も踏まえ、以下①②について検討を行いました。

（①マスクの着用に関する主な意見）

- ✓ 様々な活動があるので、ひとくくりにするのではなく、活動ごとに、マスクの着脱などの感染症対策を考えていくことが必要。
- ✓ 「判断できる」機会を作ることは教育的にも重要。正しい情報を伝えて、主体的判断ができる子ども、マスクを着ける人も着けない人も互いに違いを認めていく人権意識を持った子どもを育てていく機会にしたい。
- ✓ 世の中の大人が着けている・着けていないで、自分の着用を判断する子どもがいるので、急いではずすことをすすめすぎないことが大事。

（②学級閉鎖の基準に関する主な意見）

- ✓ インフルエンザ並みの基準でよい。
- ✓ 中学校では、部活動で感染が広まることもある。感染が広まっているところを判断して対応したい。

